

米FOMCと雇用統計 今後に向けて重要なイベントが並ぶ

2022年10月31日(月)

11月1日、2日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が開催されます。0.75%ポイントの利上げがほぼ確実視されています。前回のFOMCで公表された参加メンバーによる年末時点での政策金利見通し(ドットプロット)では、年内に1.25%ポイントの利上げを行うという見通しを中心シナリオとなりました。今回0.5%ポイントで12月に0.75%に戻すという可能性はほぼないため、今回の0.75%ポイント利上げが既定路線となります。

注目は次回以降に向けた動きです。ドットプロットでは12月に0.5%ポイント利上げへ利上げ幅縮小となっています。しかし、10月12日に発表された9月の米生産者物価指数、13日に発表された同消費者物価指数の前年比がともに予想を上回る伸びを示し、市場の利上げ期待が強まりました。9月の米雇用統計での雇用者数の堅調な伸びなども大幅利上げのハードルを下げており、市場では12月も0.75%ポイント利上げを維持するとの見方が大勢に。短期金利先物市場動向からみた利上げ確率を示すCMEFedWatchでは12月の0.75%を一時80%近く織り込むところまで大幅利上げ期待が強まっていました。

しかし、ここに来て大幅利上げによる米景気の鈍化を警戒する動きが強まっています。景気動向に敏感なハト派として知られるエバンス・シカゴ連銀総裁やデーリー・サンフランシスコ連銀総裁から、今後の利上げ幅縮小に向けた発言が見られたことや、25日に発表されたコンファレンスボード消費者信頼感指数が予想を下回る弱めの数字となったことなどが、市場の大幅利上げ期待を後退させました。米長期金利も低下傾向を示し、ベンチマークとなる米10年債は4.3%台を付けた後、4.0%を割り込むところまで低下しています。

こうした動きを受けて、CMEFedWatchでの12月FOMCでの利上げ見通しは、0.50%ポイントが大勢になるところまで低下しました。11月のFOMCでの利上げ見通しについても、一時は0.75%ポイント利上げが約97%とほぼ完全に織り込まれていましたが、80%強まで見通しが低下。0.5%ポイント利上げを見込む動きが一部で出ている状況です。26日のカナダ銀行(中央銀行)金融政策会合で、利上げ幅が市場の予想した0.75%ポイントではなく、0.5%ポイントにとどまったことなども、米国の大幅利上げ期待を押し下げる形となりました。

とはいえ、米FRBの物価高対応に向けた強い姿勢は崩れておらず、今回は0.75%ポイント利上げを維持してくる可能性が高いです。ただ、次回以降に関しては、FOMCが示した元々の中心シナリオということもあり、利上げ幅縮小の可能性はそれなりにありそうです。

この場合、市場との対話を重視しているパウエル議長は、声明やFOMC後の議長会見で何らかの示唆をしていく可能性が高いと見られます。今回のFOMCは結果だけでなく声明や会見に要注意です。

12月のFOMCでの利上げ幅を見込むうえで、もう一つ重要になってくるのが、4日に発表される10月の米雇用統計です。物価高が進む中、雇用市場がしっかりした状況を維持し景気を支えることが出来るのかどうかは非常に重要なポイントとなります。

前回9月の米雇用統計は非農業部門雇用者数が26.3万人増となりました。市場予想の27万人前後よりもやや少ないものの、堅調な伸びとなっています。失業率は8月の3.7%と同水準が見込まれていましたが、3.5%に低下しています。

内訳をみると、レジャー&ホスピタリティ部門の8.3万人増が目立ちます。パンデミック後の回復が他の部門より遅れており、雇用全体ではパンデミック前の水準を超えて増加している米国において、パンデミック前と比べてまだ95.2万人も雇用者数が少なく、回復余地があるという面が大きいです。ただ、景気にかかなり敏感な部門だけに、同部門の堅調な回復は好印象です。

一方9月は小売部門と運輸・倉庫部門で雇用が減少しました。小売部門は8月が4.26万人増と大きく伸びており、その分の反動という面があります。ただ、小売部門、運輸・倉庫部門共に景気に敏感な部門だけに、こちらは警戒感につながっています。

今回の予想は20.0万人増。7月の53.7万人増から8月の31.5万人増、9月の26.3万人増と増加幅が縮小してきており、4ヶ月連続での雇用の増加幅減少が見込まれています。

もっとも、パンデミック前の雇用者数を8月時点で上回っている状況での20万人増は決して悪い水準ではありません。コロナ禍で雇用市場が混乱する前の2010年から19年の10年間をみると、非農業部門雇用者数の平均は18万人増となっており、20万人増はやや強めの水準でした。失業率は3.6%と前回の3.5%から悪化見通しですが、こちらは8月の3.7%から前回0.2%ポイント低下した分の反動と見られます。

全体として予想前後の数字が出てくると、米雇用市場は堅調という印象です。12月の大幅利上げのハードルに成るような水準ではなく、ドル買いにつながる可能性があります。ただ米雇用統計、特に非農業部門雇用者数は予想からのブレがそれなりにある指標です。予想を下回る弱めの伸びとなった場合は、12月の0.5%ポイントへの利上げ幅縮小見通しが一段と強まる形でドル売りにつながる可能性があります。